

12月20日(土)実践・研究報告 発表者一覧 (地域課題解決全国フォーラムin庄内2014)

【セッション1】人材育成①

【会場】中研修室1 【司会】白旗 希実子

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
13:00	後藤 好邦	山形市役所	一般	人的ネットワークの重要性 ～東北まちづくりオフサイトミーティングの事例から～	-	東北まちづくりオフサイトミーティング(東北OM)は、東北地方で地域活性化やまちづくりに資する人材育成を目的に自治体職員のネットワークとして発足した。2009年の発足当初は28名のメンバーだったが、その後、公務員と共に民間の方々や学生など、メンバーも多様化し、今では800名を超える大きな広域的ネットワークに成長している。この東北OMの活動を通して人的ネットワークの果たす役割について報告を行う。
13:20	松本 知	東北公益文科大学	学生	山形県庄内地域における小学生を対象とした「公益を考える授業」の企画と実践～東北公益文科大学 Koeki Kids Projectからの活動報告～	橋口 櫻子、松田 映夢、筒井 友美、真嶋 航和(東北公益文科大学)	東北公益文科大学では平成22年度より学生グループであるKoeki Kids Projectが地域の小学生を対象とした「公益を考える授業」の企画と実践に取り組んできた。地域社会や国際社会が抱える様々な課題の解決のためには、立場を超えて、一人ひとりの個人が公益の視点を理解し、それに沿った行動ができる事が必要である。本報告では、Koeki Kids Projectの5年間の活動実績や学生自身の学びについて報告し、参加者とともに学生が主体となった地域人材育成の方法について意見交換を行うことを目的とする。
13:40	小野寺 大樹	東北公益文科大学	学生	自分の思いを発信する「読書会」	伊東 誓雅(東北公益文科大学)	私たちの読書会は、読んできた本をみんなに紹介する場です。10～15分間、みんなの前に立ってそれぞれ発表をします。本を読むだけに留まらずに、読んで得たものをアウトプットしていくことを大事にしている会です。自分の意見を皆の前で発表することは勇気がいることです。その発表を聴いている側も、発表者が自分の意見を発表しやすい環境を作ります。現在少人数で取り組んでいて、始まったばかりの私たちの「読書会」を紹介します。
14:00	和田 明子	東北公益文科大学	一般	人口減少時代の自治体職員研修のあり方～庄内地域における官民連携・協働による地域課題解決に向けて【地域課題基礎研究中間報告】	武田 真理子、平尾 清、斉藤 徹史、内藤 悟(東北公益文科大学)	自治体職員は地域課題解決に最前線にあたる重要なアクターの一人である。本報告では、人口減少時代の地域課題解決に必要な能力を育む自治体職員研修のあり方について、定住自立圏合同研修を実施している鶴岡市・庄内町・三川町の協力を得ながら、論点を絞って検討する。さらに、地域力結集による人材育成システムのあり方についても展望する。
14:20	滝澤 匡	山形大学	一般	人材育成プロジェクト「社会人育成山形講座」の体験型授業について	-	県内の高等教育機関は自治体および経済界と連携しながら、人材育成プロジェクト「社会人育成山形講座」を展開している。これは、県内の多様な教育資源を取り入れ、学生の社会人として必要な能力を育成する取組であり、合計30以上の科目が県内大学で開講されている。今回の発表では、山形大学で開講している、地域の魅力を学びながらコミュニケーション力等を育成する体験型授業「感じる山形」の内容とこれまでの成果を報告する。

【セッション2】人材育成②

【会場】中研修室2 【司会】神田 直弥

13:00	荒木 洋樹	東北公益文科大学 大学院	学生	人材育成および地域課題解決を目指す地域連携Project Based Learning(PBL)の実情について	-	文部科学省は平成20年に取りまとめた答申においてPBLに代表される体験的な活動の充実を提案し、また平成25年に地域を志向した教育・研究・社会貢献を支援する地(知)の拠点整備事業(COC)を開始した。それに伴い今後ますます地域と深く関わる地域連携PBLの必要性が高まると予想される。そこでCOC採択大学を対象に地域連携PBLの実施状況や体制、科目情報、地域との関わり、抱える課題など実情を調査したため、ここに報告する。
13:20	石井 久仁子	地域連携教育・研究センター	一般	コラボ教育における看護人材の育成～地域住民の暮らしを理解し、生活と安心を支える看護人材の育成を目指して～	相原 洋子、石原 逸子(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター)	本学では、地域の暮らしや生活を理解できる看護職の育成を目指し、地域住民による「教育ボランティア」を導入した授業を展開してきた。COC事業では、この取り組みを「コラボ教育」として発展させ、学年進行に合わせて段階的・系統的にカリキュラムに導入し、地域に出向いた教育活動を展開している。「コラボ教育」は、学生にとってリアリティのある学びになり、地域への関心や看護学生としての自覚の醸成につながっている。

13:40	大森 豊	宇都宮大学地域連携教育研究センター	一般	とちぎ終章学	-	宇都宮大学では、地(知)の拠点整備事業を活用し、栃木県の課題であると同時に日本の普遍的課題でもある高齢者共生社会を支える人材を育成するため、地域住民向けに「終章コミュニティワーカー」の養成を行うとともに「とちぎ終章学総論」を本学1年生の必修科目として創設します。
14:00	小関 久恵	東北公益文科大学	一般	「聞き書き」を活用した人材育成～庄内の達人プロジェクト実践報告～	渡辺暁雄、遠山茂樹、熊谷夏季、岡崎愛子、佐藤百恵、山野駿(東北公益文科大学)	地域リーダーとしての活躍が期待される一方、地域社会との交流機会があまりない高校生を対象にした人材育成プログラム「庄内の達人プロジェクト」を取り巻く一連の実践報告を行う。庄内地域で活躍する「達人」に高校生が「聞き書き」の手法を用いてインタビュー及びまとめを行う過程や、サポーターである大学生や地域の若者との関わり合いの中で互いにどのような気づき・学びが得られたのかについて中間報告を行う。
14:20	伊藤 眞知子	東北公益文科大学	一般	人材育成の方法としての「聞き書き」に関する領域横断的研究―「庄内の達人プロジェクト」の実践を通して― 【地域課題基礎研究中間報告】	小関久恵、渡辺暁雄、澤邊みさ子、遠山茂樹(東北公益文科大学)	本研究は、地域リーダー育成の方法として「聞き書き」に着目し、社会学、民俗学、歴史学、社会教育、ソーシャルワーク、介護福祉等、さまざまな領域から接近し総合する領域横断的研究により、庄内地域独自の人材育成方法を開発し検証することを目的としている。平成26年度「庄内の達人プロジェクト」において、高校生・大学生・若者が「食」にかかわる「達人」に「聞き書き」を行う実践活動を研究対象として、中間報告を行う。

【セッション3】課題解決①

【会場】105教室 【司会】山本 裕樹

13:00	阿部 俊夫	特定非営利活動法人つるおかランド・バンク	一般	特定非営利活動法人つるおかランド・バンクの取り組み	阿部純一(特定非営利活動法人つるおかランド・バンク)	官民連携での鶴岡市内の空き地空き家対策
13:20	堀内 史朗	山形大学COC推進室	一般	山形で個人経営者が生き抜くシステム	-	山形などの人口減少問題を解決するためには、旧来的な大企業の誘致だけでなく、地域に密着した企業を育成することで雇用を創出することが不可欠である。報告者は、山形県で個人事業・小企業の運営をしている事業者への聞き取り調査を今年度から進めてきた。本報告では、彼らが事業運営のスタート、継続において利用したネットワークの特徴を紹介する。企業面から人口減少問題を解決する手法を探ることを目的とする。
13:40	景井 充	立命館大学産業社会学部	一般	中山間地域における地域振興の取り組み―立命館大学産業社会学部・京北プロジェクトが目指すもの―	田中玲奈、加古純一、屋田千有紀、松島理菜(立命館大学産業社会学部)	立命館大学産業社会学部京北プロジェクトは、都市部近郊の中山間地域である京都市右京区京北地域における公益的な地域産業の創造を目指して、地域資産を活用した商品開発、廃校となった小学校を活用したグリーンツーリズム拠点の構造創り、また大学生協と連携した地産地消事業の推進や6次産業の構築などに取り組んでいる。報告では、中山間地域独特の地域課題のありようを押えつつ、京北プロジェクトの活動現況と構想を報告する。
14:00	熊澤 舞子	東北公益文科大学	学生	中心市街地の空き家問題と利活用について	-	酒田市中心市街地の空き家問題が深刻化している。酒田市内には2013年時点で1475件の空き家があった。また市街地に大学生の集まるところが少なく、街に学生文化は構築されていない。この2つの課題を解決するため、商店街の空きビルを学生向けシェアハウスに活用した。空き家問題の現状と実際に住むまでの経緯や街への影響を報告する。
14:20	山口 泰史	東北公益文科大学	一般	庄内地域における若者の地元定着の要因と意識構造に関する研究 【地域課題基礎研究中間報告】	松山薫(東北公益文科大学)、江崎雄治(専修大学)、渋谷陽一、佐藤和徳(庄内総合支庁)	国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、庄内地域の人口は、2010年の29.7万人(国勢調査)から、2040年には19.4万人に減少するとされる。そうした中、地元出身の若者が、Uターンも含めてどの程度地元に残るかは、地域人口の減少を抑制する上で重要な論点になると考えられる。その中で、親が子どものライフコースをどう考えているか(地元に残ってほしいか否か等)は、本人の将来選択にも少なからず影響を与える可能性がある。この点を、高校生の親世代のアンケートを通じて検証したい。

【セッション4】課題解決②

【会場】209教室 【司会】中原 浩子

13:00	和田 梨里	東北公益文科大学	学生	外国人おもてなし隊	鈴木桃子、齋藤優、高藤由貴、佐藤七海、千葉結香梨(東北公益文科大学)	今年春に発足した『外国人おもてなし隊』について、活動目的やこれまでの実践報告、そして現状報告も含めた今後の取り組み方針について発表します。
13:20	中原 浩子	東北公益文科大学	学生	JRと共同で取り組んだDCの活動	杉浦圭祐・皆川一樹、三上陽香、佐藤七海、千葉結香梨、梅津さや、池田絵美(東北公益文科大学)	今年の夏山形県全域でJRにより行われた大型観光キャンペーンである山形DCの際に、庄内を活性化したいと、学生が期間中毎週土日に酒田駅にて観光客の送迎や案内を行った。また、庄内全域の笑顔による庄内PRの動画を制作、最終日には列車「きらきらうえつ」内にて上映。この動きは市民にも広がりつつある。
13:40	佐藤 浩子	ひろまるデザイン	一般	ひとりひとりにできること-地域の活性化について-	-	私は、Uターン者です。デザインでこの町を元気にしたい！それが私の実現したい夢です。今年10月に開業し、現在グラフィックデザインの仕事に就いております。まだまだ手探りですが、地元を元気にしていくためにはどうしたらいいか、デザインというツールを使って模索中です。
14:00	渡辺 暁雄	東北公益文科大学	一般	日本海から見た庄内-新たな観光産業の創出を目指した広域連携モデルの構築(鶴岡市加茂・湯野浜地区)	松山薫(東北公益文科大学)、齊藤友香(東北公益文科大学大学院)	県「庄内景観回廊」指定、鶴岡市加茂地区。公益大では平成23年度から同地域でまちづくり活動を実践。本年度は加茂水族館観光客の増大に対し、まち歩き誘導のための「お休み処」企画を実施。まちづくりのための計画策定(鶴岡市)にも参加。また隣接する湯野浜では庄内交通湯野浜線の跡地および旧善寶寺駅舎周辺の歴史的資源を活用した交流人口促進を、加茂地区との連携も考慮しつつ実施。その内容と今後の展望について報告する。
14:20	門脇 昂祐	東北公益文科大学	学生	鍋の会	-	鍋の会は、酒田市市民大学講座夜の部において企画された、市民、行政、学生の間にある壁を取り払い、食を通じて世代間交流の場を設けることにより、まちづくりの活性を図る会です。「自分のことからやる」をコンセプトに、お互いを良く知ることから活動を始めています。

【セッション5】課題解決③

【会場】210教室 【司会】澤邊 みさ子

13:00	忠澤 智巳	東北公益文科大学大学院博士後期課程 荒川区障害福祉上級専門推進員	学生	都市部における地域課題の多様化について-障害福祉分野の地域支援を通して-	-	都市部ではその地域性により、障害・高齢・貧困・外国籍・触法など多分野の支援を併せて必要とする要援護者を抱えている。本発表では、都市部地域における障害福祉分野の支援を通して、多様化した課題の中から福祉と司法の狭間にあり、支援の手が届きにくい触法事案に焦点をあて、支援に必要な資源が欠乏している現状と課題を確認しながら、解決策を見出すための研究と取り組みについて報告する。
13:20	山田 岳人	東北公益文科大学地域福祉コース2年	学生	医療・福祉、まちづくり分野における「多職種連携学生ネットワーク」の試み	高藤由貴、丹野浩平、菊池桃加、渡辺玲奈、菅原光莉、飛澤由佳、松永雄平、菊地晶樹(東北公益文科大学)	住み慣れた地域で誰もが最期まで安心して暮らすことのできる地域をつくるためには、医療・福祉やまちづくりといった、異分野・異業種の連携による地域づくりが欠かせない。そこで私たちは、「やまがた多職種連携学生ネットワーク」を立ち上げ、県内を中心として、医療・福祉、まちづくり等に関心のある学生を集めて組織化を試みた。報告では、12月13日(土)に実施予定の最初のイベントの成果と課題、今後の方向性について発表する。

13:40	有路 裕子	東北公益文科大学	学生	鶴岡市第一学区「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト」における調査活動の結果報告と課題に関する考察	阿部香織、遠藤史織、飛澤由佳(東北公益文科大学)	鶴岡市第一学区コミュニティ振興会及び学区内の関係組織・団体は、関係者が一致、協力をし合って地域内の結びつきを強め、誰も孤立しない新しい絆を地域づくりを目的とした「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト」に取り組んでいる。プロジェクトの推進過程では地域の実態を客観的に調査し、その結果に基づいて住民が地域の課題を共有することが重要であり、この課題抽出のために東北公益文科大学公益学部「地域福祉演習」履修生19名と担当教員2名が実施した3つの調査の結果の概要とそこから抽出された課題の考察に関する報告を行う。
14:00	佐藤裕輔	東北公益文科大学	学生	酒田市日向地区における防災マップづくりの実践～多様な主体との共創による住民の主体的な合意形成モデル構築～	菊地あゆ美、西塔史哉(東北公益文科大学)	地域において住民の主体的な合意形成を創出するためには、多くの住民が共通して強い関心を持つテーマをきっかけに取り組むことが重要である。本報告は、酒田市日向地区コミュニティ振興会・地域住民と東北公益文科大学の正課科目「公益社会演習(地域コミュニティにおける「防災」の仕組みづくり)」の履修学生及び教員との協働による、地域支え合い防災マップづくりの実践内容と、その成果について発表する。

【セッション6】課題解決④(島特別セッション)

【会場】212教室 【司会】呉 尚浩

13:00	呉 尚浩	東北公益文科大学	一般	とびしま未来協議会の挑戦～公益的な民の力による「離島振興計画づくり」とその実践	伊藤真知子、澤邊みさ子、小関久恵、三浦巧(東北公益文科大学)、岸本誠司(とびしま漁村文化研究会)、間宮加代(とびしま未来協議会)、渡部陽子(合同会社とびしま)	とびしま未来協議会は、継続的に島づくりの課題に関わる人々のネットワークである「公益的な民の力」を結集し、島民・NPO・大学・行政等の共創で、島づくりの夢を描き、実践する場として2011年に誕生しました。その後、2013年には、一部離島としては全国に先駆けて、住民主体の離島振興計画づくりに取り組み、そのビジョンからさまざまな実践が生まれています。本報告では、本セッションの全体の見取り図を提供します。
13:20	本間 当	合同会社とびしま	一般	「地域に住み、学び、つくる-「合同会社とびしま」の仕事づくり-」	渡部 陽子、松本 友哉、小川 ひかり、遠藤 元一(合同会社とびしま)	飛島で平成25年3月に設立した「合同会社とびしま」は、Uターン若者5名からなる小さな会社です。1～3次産業を総合的に行う6次産業化を目指しており、その基盤として「0次産業」を提唱しています。0次産業とは「歴史文化の保存・継承の活動」を指しており、主な活動は聞き書きや撮影等の記録です。島で生活しながら地域を学び、それを活かした仕事づくりを行っています。小さな島で始まった若者の活動を報告致します。
13:40	岸本 誠司	とびしま漁村文化研究会	一般	地域学としての「飛島学」-物語・共感・行動のプロセスへ向けて-	小川ひかり(合同会社とびしま/とびしま漁村文化研究会)	現在、飛島では避けがたい人口減少と向き合いながら、多様な主体の関わりによる地域振興が取り組まれています。「とびしま漁村文化研究会」は島に関わる主体のひとつとして、飛島の自然・歴史・文化などに関する研究と、地域文化の継承活動に取り組んでいます。本発表では、「物語」の抽出、「共感」の創造、「行動」へのプロセスをテーマに、実践報告を行います。
14:00	大谷 明	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス	一般	「海洋ごみ問題に焦点をあてた、<とびしまクリーンツーリズム>の実施報告」	金子博、間宮加代(特定非営利活動法人パートナーシップオフィス)、小川ひかり、松本友哉(合同会社とびしま)	山形県では、2014年度『とびしまクリーンツーリズム』をキャッチフレーズとして、山形県唯一の離島、飛島を舞台に海のごみ問題について学ぶ一泊二日の体験ツアーを行いました。海岸の清掃活動をはじめ、自然観察やスノーケリングなど飛島ならではの体験を通して自然豊かな飛島の魅力に触れながら、美しい自然と豊かな海を守る大切さについて学びました。本発表では、クリーンツーリズムの実施報告を行います。
14:20	長谷川 尚道	広島商船高等専門学校	一般	大学COC・離島高専の取り組み～大崎上島・広島商船の試み	芝田浩(広島商船高等専門学校)	離島社会の課題として、少子高齢化。経済の縮小、交通の確保、介護サービスの需要増加などがある。本事業の目的は瀬戸内海の離島「大崎上島」に立地する国立高専として、離島社会のニーズを離島振興法に基づく振興計画項目12分野に分け各々の課題に沿った学校の機能も分化を推進し地域未来を切り開く人材の育成と離島社会の再生・活性化のための教育研究と社会貢献を行う。